

完了報告書

報告日付：2024年4月15日

事業 ID：2023007554

事業名：福岡県水巻町における「子ども第三の居場所」
コミュニティモデルの運営（2年目）

1. 事業内容

(1) 実績

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

（週3日、月木16時から19時、土11時から16時まで開所）

場所：福岡県遠賀郡水巻町

対象5名（家庭や自身に課題を抱えた子どもを中心に）

内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。食事や学習支援、家族支援の実施等。

(2) 成功したこととその要因

- ・子どもとの関係や子ども同士の良い関係性を時間をかけて築くことができた。その要因は、子ども支援オフィスの相談支援員やSSWといっしょに、寄り添って見守る体制があったことと思われる。
- ・昨年度に続き、「水巻町子どもの居場所ネットワーク会議」を開催し、子どもを見守る地域づくりを目的とした交流や活発な意見交換ができた。

(3) 失敗したこととその要因

- ・1日の小学生の平均利用数が目標に届かなかった。SSW とつながって学校と個別ケース会議をすることはあったが、小学校に対して広く居場所を知ってもらう取り組みができなかった。
- ・学生ボランティアの参加はあったが、学習支援については十分に行えなかった。学習支援を行うためのノウハウや準備の不足が要因である。近隣の大学等への訪問もできなかった。

2. 契約時事業目標の達成状況

- (1) 居場所には未就学児の親子連れや中学生、高校生年代の子どももきているが、一日の小学生の平均利用数は5名にとどまった。12月以降は感染症による学級閉鎖などの影響もあった。
- (2) 地域住民に参加を呼び掛けた多世代交流のイベントの開催はできなかった。
- (3) 子どもと一緒に調理をする機会を多くした。おやつ作り、餃子づくりなど子どもたちと一緒に作って一緒に食べることで、食の大事さ、食で満たされていくことが

感じられる場になった。



(4) 体験活動は、支援金事業の助成により3回行うことができた。水族館に行った体験は、その後居場所のガラス戸に絵を描く表現につながった。秋にはグリーンコープのみかん生産者を訪ねて、農薬などを使用しない農園の様子を知ることができた。防災センターでは、もしものときの対処法などを学ぶことができた。





(5) また、7月に福岡市で世界水泳が開催された際には、大会スポンサーのニコン様によるワークショップに参加する機会をいただいた。競技観戦と合わせて顕微鏡とプロカメラマンの世界に実際に触れる貴重な体験となった。



(6) 調理等の体験活動による子どもの変化についてアンケートをとるところまでには至らなかった。

3. 事業実施によって得られた成果

- (1) 地域住民に参加を呼び掛けた多世代交流のイベントの開催はできなかったが、不登校の高校生が少しずつ居場所には来れるようになり、高校生のエンパワメントにつながった。高校生がボランティアとしてスタッフと一緒に食事づくりをしてくれるようになり、そのことが自己肯定感につながり、自分の将来について少しずつ考えられるようになっていった。
- (2) 体験活動では、貸切バスや公共交通機関での移動などがあり、居場所とは違うまとまった行動をとる必要があったが子どもたちの個性がよく現れてくる機会にもなった。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

- ・居場所には子ども支援オフィスからの紹介でつながる子どもや親が多いが、地域の小学校、中学校への案内も積極的にすすめる。自分たちで調理をする体験が子ども同士の関係性の向上に良い影響を与えているので、その機会を少しずつ増やしていきたい。
- ・SSW との連携による学校との関係づくりが大切であり、ネットワーク会議への参加を呼び掛けていきたい。
- ・民生委員さんの中には、地域の中に困りごとを相談できる自立相談支援事務所や子ども支援オフィスがあることをご存じない方もおられる。水巻こどものおうちとあわせて広報について考えたい。

以上

